

カネソウ E X ジョイント 免震構造建築用 MX シリーズ

エキスパンションジョイント 施工要領書・取扱説明書

対象製品：床部（屋外床）免震エキスパンションジョイント
MX77VTEF-U-M
MX77VTHF-U-M
MX77G-U-6
MX77C-U-6
MX77CE-U-2
MX77CE-F-2

施工およびご使用される前に必ず最後までお読みください

この度は、カネソウ E X ジョイント免震構造建築用をご使用いただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの「施工要領書・取扱説明書」をご一読いただきますようお願いいたします。
間違った施工・取扱を行いますと、製品のガタツキや損傷、事故につながる可能性がありますのでご注意ください。
なお、施工終了後は本書を御施主様あるいは建物管理者様へ、必ずお渡しいただくようお願いいたします。
本書は、いつでも見られる場所に必ず保管していただくようお願いいたします。

カネソウ株式会社

〒510-8101 三重県三重郡朝日町大字縄生81番地

TEL (059) 377-3232 FAX (059) 377-3905

東京支店

TEL (03) 3433-6645

大阪営業所

TEL (06) 7639-5870

仙台営業所

TEL (022) 214-8088

福岡営業所

TEL (092) 432-2532

URL: <https://www.kaneso.co.jp/> E-mail: info@kaneso.co.jp

この内容は2023年2月現在のものです。仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

240-11K

EXジョイントを安全にご使用いただくためのお願い

本製品は正しく取り扱うことで、安全にご使用いただけます。
製品の誤った場所での使用、誤った取り扱い、破損したままの製品を継続して使用することによる、
事故の未然防止のため、下記の注意事項をお守りいただくよう、お願いいたします。

設計上の注意事項

設計条件を超える荷重がかかる場所では使用しないでください。

床用のエキスパンションジョイントには、設計荷重があります。適用荷重を超える荷重がかかると、破損や変形を招き、事故を引き起こす恐れがあります。

設計前に必ず使用場所の確認を行ってください。

設計前に必ず使用場所の確認を行ってください。エキスパンションジョイントは、製品によってサイズ・形状・仕様が大きく異なります。設計前に必ず使用場所の確認を行ったうえで、製品を選定してください。本施工要領書・取扱説明書に掲載されている、製品の使用場所以外には使用しないでください。

施工上の注意事項

加工をしないでください。

切断、穴あけ、切削、変形などの加工を施さないでください。製品強度の低下や、錆の発生原因となり、事故を引き起こす恐れがあります。

外部からの強い衝撃を与えないでください。

搬入時などエキスパンションジョイントに、衝撃や荷重をかけないでください。破損や変形する恐れがあります。

取扱・維持管理上の注意事項

維持管理上の注意について

本体パネルが破損したり紛失した場合は、速やかに取り替えまたは補充をしてください。取り替えまたは補充をしないと、転倒事故などによりケガおよび骨折の恐れがあります。特に地震など大きな変位があった後は、製品の破損状況や本体パネルなどが所定の位置に戻っているか、ガタツキ等がないかを確認し、安全な状況を確認してから通行してください。

すき間に指を入れないでください。

本体パネルと本体パネルのすき間や、本体パネルと受枠のすき間などに指を入れると、指詰めなどのケガをする恐れがあります。

持ち運びおよび輸送には、充分ご注意ください。

重量の重い部材があります。腰などを痛めたり、足の上にとすとケガの恐れがあります。

取り付け・取り外しは専門業者に依頼してください。

エキスパンションジョイントの施工および取り扱いについては、製品の機能を維持するため、また、施工・取り付け不良による破損や変形、不具合を防止するためにも、施工要領書・取扱説明書記載の手順を厳守してください。清掃や交換などのメンテナンスが必要な場合は、専門業者に依頼してください。取付方法を誤ると、破損や変形、ガタツキを招き、事故を引き起こす恐れがあります。取り付け・清掃・交換・点検などの際は、必ず作業用手袋を着用してください。

ステンレス製品について

ステンレスは、絶対に錆びない金属ではありません。ステンレス製品を美しく保つには、設計、施工上の配慮に加えて、適切な清掃と手入れが必要です。清掃にあたっては、状況に応じた適切な方法を選んでください。また、ステンレス製品のうち、SUS304を使用している製品におきましては、通常、磁性を有しませんが、生産工程における曲げ加工や溶接などにより、加工部分の金属組織が変わり、磁性を持つようになる場合がありますので、ご了承ください。

破損、変形、ガタツキが発生したエキスパンションジョイントは使用しないでください。

何らかの原因で、破損や変形あるいはガタツキが発生しているエキスパンションジョイントは、強度が著しく低下しており、事故を引き起こす恐れがあります。適正な製品に交換してください。

タイル等を清掃する場合の注意事項

タイル等を酸系統（次亜塩素酸ソーダなど）の洗浄液で清掃する場合、金属製品（ステンレス・アルミニウム・鋳鉄・スチールの塗装品および亜鉛めっき品）の錆の発生を防ぐため、金属製品に確実に養生を行うか、清掃後水洗いを十分行ってください。

油などが付着した場合、速やかに取り除いてください。

油などの滑りやすいものがエキスパンションジョイントの表面に付着すると、車両のスリップや歩行者の転倒などの事故を引き起こす恐れがあります。速やかに清掃を行い、油などを取り除いてください。

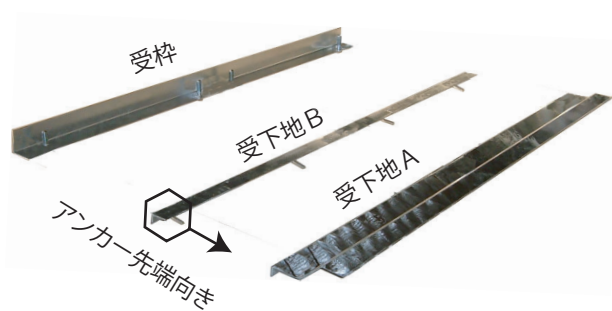
レベラー組立手順 Uタイプ（せり上がりタイプ）

施工時にはレベラーを使用して組み立てます。レベラーは1物件につき、最大で下地の標準長さ2セット分付属します。下地数量がそれより多い場合は下地を溶接固定施工後、取り外して複数回ご使用ください。下地の標準長さは2000mmです。レベラーは3本で1セットです。

図a レベラーU



図b 下地U



手順①

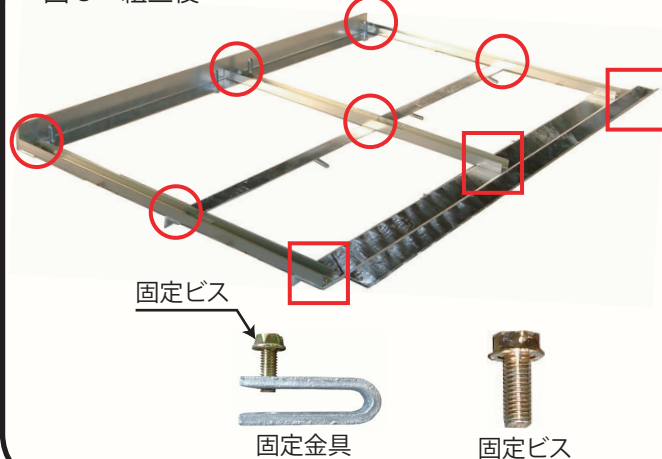
下地Uの上面にレベラーUをセットします。

- ・レベラーU (図a) の先端Aが下地U (図b) の受下地Aに、レベラーUの先端Bが下地Uの受枠に向くようにします。
- ・受下地Bのアンカー先端向きが受枠と逆方向になるようにします。
- ・レベラーUに受枠・受下地を合わせ、全てそろえて組み立ててください(図c)。

手順②

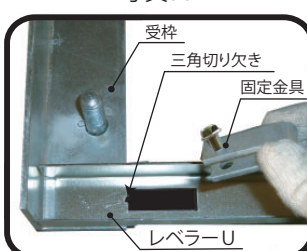
レベラーU、下地Uを固定金具・固定ビスを用いて固定します。

図c 組立後

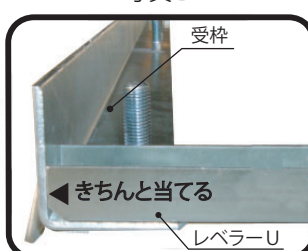


- ・受枠の立面部にレベラーUの端部がきちんとあたっているか(写真B)、受下地Bのアンカー先端向きが受枠側と逆方向になっているか(写真C)を確認してください。
- ・図cに示した○部を固定金具、□部を固定ビスで固定します。
- ・○部の固定金具は、レベラーUの上側から固定金具を差し込み、下地U(受枠、受下地B)とレベラーUを挟み込んだ状態で、固定ビスをドライバーで締め付けてください。受枠はレベラーUの先端Bに固定してください(写真A・C)。
- ・□部の固定ビスは、レベラーUの上側から差し込み、ドライバーで締め付けて固定してください(写真D)。
- ・下地寸法、形状、配置が図面寸法に合っているか確認してください。

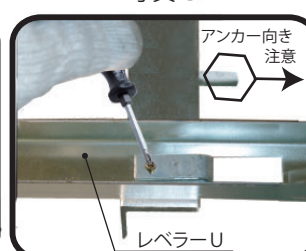
写真A



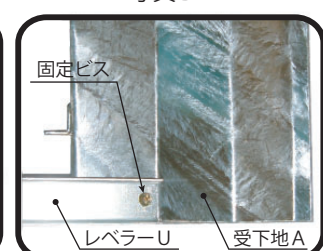
写真B



写真C



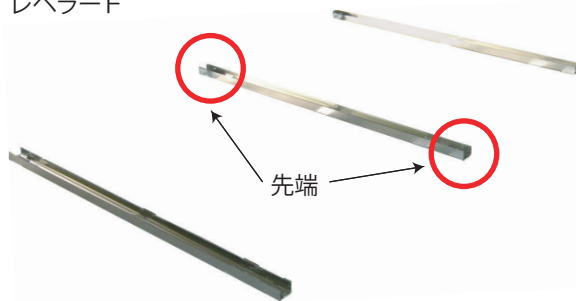
写真D



レベラー組立手順 Fタイプ（スライドタイプ）

施工時にはレベラーを使用して組み立てます。レベラーは1物件につき、最大で下地の標準長さ2セット分付属します。下地数量がそれより多い場合は下地を溶接固定施工後、取り外して複数回ご使用ください。下地の標準長さは2000mmです。レベラーは3本で1セットです。

図Ⅰ レベラーF

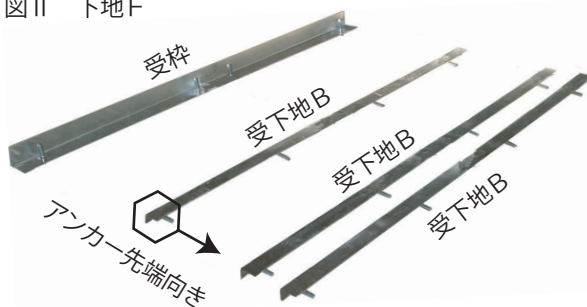


先端拡大図



三角切り欠き

図Ⅱ 下地F



手順①

下地Fの上面にレベラーFをセットします。

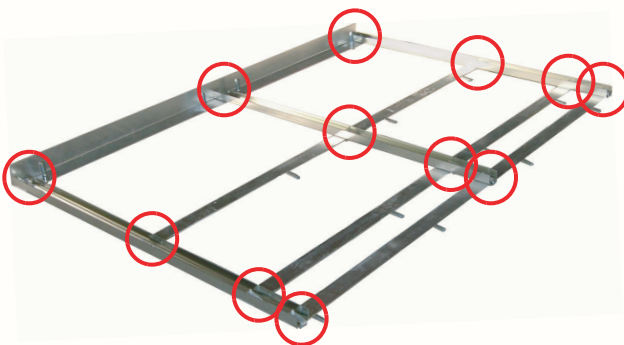
- ・受下地B(図Ⅱ)のアンカー先端向きが受枠と逆方向になるようにします。
- ・レベラーF(図Ⅰ)に受枠・受下地Bを合わせ、全てそろえて組み立ててください(図Ⅲ)。

手順②

レベラーF、下地Fを固定金具を用いて固定します。

- ・受枠の立面部にレベラーFの端部がきちんとあたっているか(写真B)、受下地Bのアンカー先端向きが受枠側と逆方向になっているか(写真C)を確認してください。
- ・図Ⅲに示した○部を固定金具で固定します。
- ・○部の固定金具は、レベラーFの上側から固定金具を差込み、下地F(受枠、受下地B)とレベラーFを挟み込んだ状態で、固定ビスをドライバーで締め付けてください。(写真A・C)。
- ・下地寸法、形状、配置が図面寸法に合っているか確認してください。

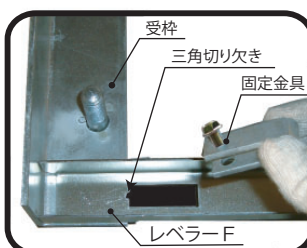
図Ⅲ 組立後



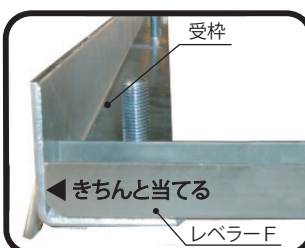
固定ビス



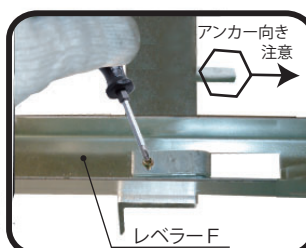
写真A



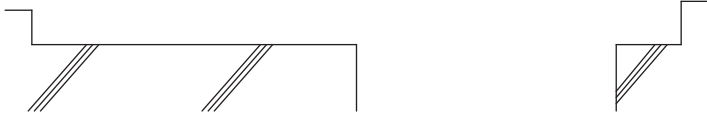
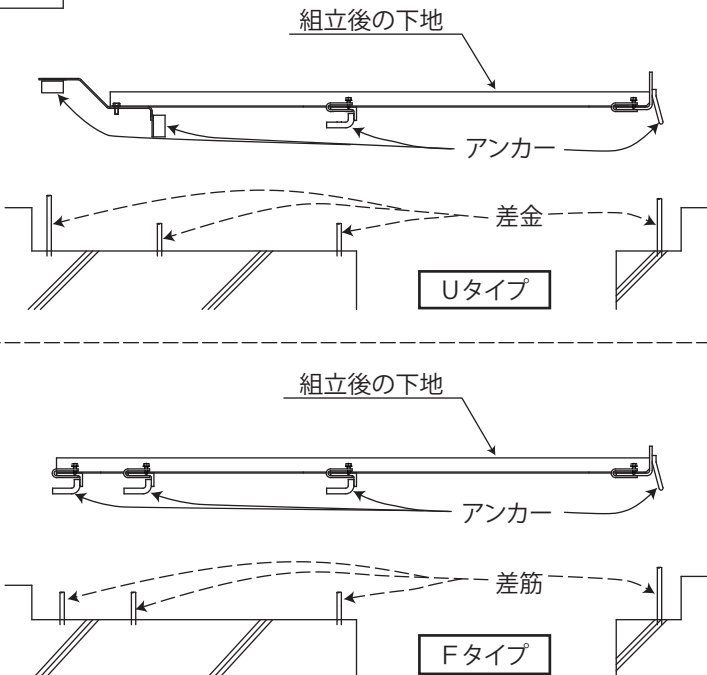
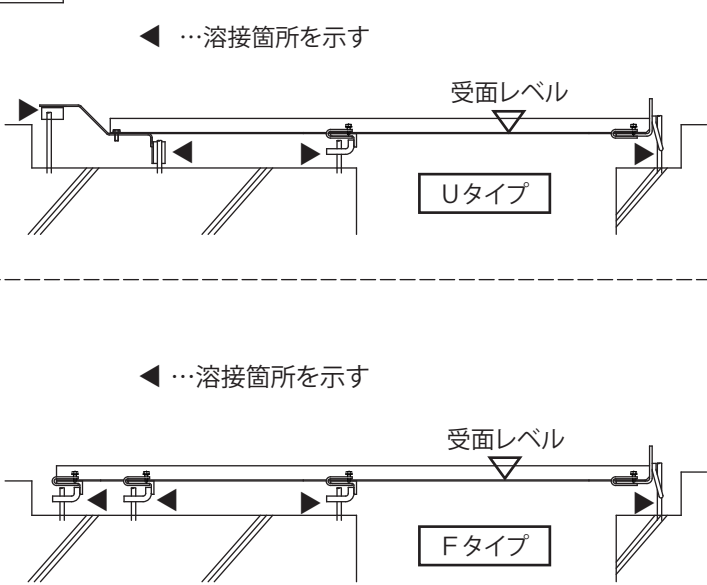
写真B



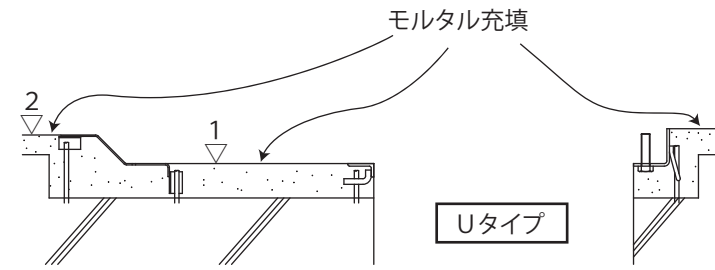
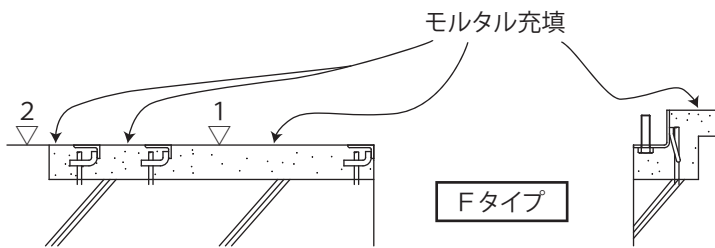
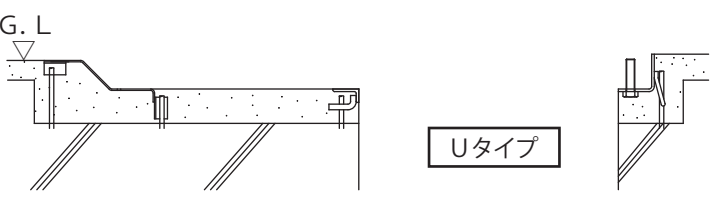
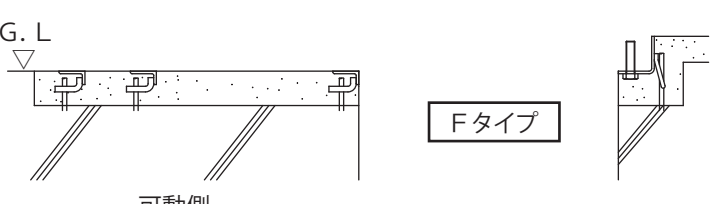
写真C



床部（屋外床）免震エキスパンションジョイント 施工手順①

1 	施工図に従いスラブを仕上げます。
2 	レベラー組立手順に従って下地を組み立てます。その後、下地にて差筋(※1)の位置を決めてください。差筋は下地のすべてのアンカー位置に立て、アンカーの先端向きに注意してください。 ※1 コンクリート発打設の場合は、補強筋で補強した鉄筋になります。 ※2 Uタイプは変位時に本体パネルがせり上がる仕様、Fタイプは平行にスライドする仕様です。
3 	図面にて寸法確認を行い、下地のレベルを調節し、すべてのアンカーと差筋(※3)を被覆アーク溶接します。溶接後レベラー金具を取り外してください。 ※3 コンクリート発打設の場合は、補強筋で補強した鉄筋になります。 ※4 下地取り付け時には、必ず付属の専用レベラー金具をご使用ください。 ※5 差筋、鉄筋は下地の受面レベルより飛び出さないようにしてください。 ※6 モルタル、コンクリートの打設作業終了まで、下地の上に荷物を置いたり、歩行したりしないでください。ガタツキなどの原因につながります。

床部（屋外床）免震エキスパンションジョイント 施工手順②

4 	モルタル(※7)を充填します。 ※7 コンクリート一発打設の場合は、コンクリートになります。 ※8 ▽1の仕上げ天端は、パネルの浮き(ガタツキ)が発生しないようにするために、必ず受下地A,Bの天端より低く仕上げてください。
	※9 ▽2の仕上げ天端は、地震可動時にも先端カバーがスライドできるように、必ず受下地Aの天端以下で平滑に仕上げてください。
5 	まわりの舗装を仕上げます。 ※10 可動側の舗装面がG.L.より高い場合、変位時に本体パネルの先端カバーが接触して本体パネル、舗装材などが損傷する恐れがありますので、絶対に避けてください。
	

床部（屋外床）免震エキスパンションジョイント 施工手順③

6

Uタイプ

下地表面の汚れ、ゴミ等を清掃し、クッション材を通して下地に貼り付けた後、本体パネルをセットします。

ボルト固定部は下より、平座金→バネ→平座金→ナットの順でセットしてください。(MX77VTEF-U-M/MX77VTHF-U-Mはナットだけの固定となります。)

最後にキャップをはめてください。

※11
クッション材は通しで貼り付けます。ボルト部分はカットして貼り付けてつけてください(図1)。

図1 クッション材の貼り付け方

※12
下地の清掃は、クッション材貼り付け時、および本体パネル敷きこみ時に、必ず行ってください。

※13
ナットの締め付けについては、下記「ナットの締め付けについて」をご参照ください。

ナットの締め付けについて

EXジョイント免震構造建築用は地震時に、本体パネルがせり上がって、地震動による変位に追従する性能を持っています。そのため、ナットを完全に締め付けてしまうと変位に追従できなくなり、本体パネルや下地を破損する恐れがあります。ナットの締め付けについては、必ず下記の寸法をお守りください。

ナット上面レベルからボルト上面レベルの寸法(右図A寸法)

MX77G-U-6	7 mm
MX77C-U-6	7 mm
MX77CE-U-2	13 mm
MX77CE-F-2	13 mm

この寸法を目安として締め付けてください

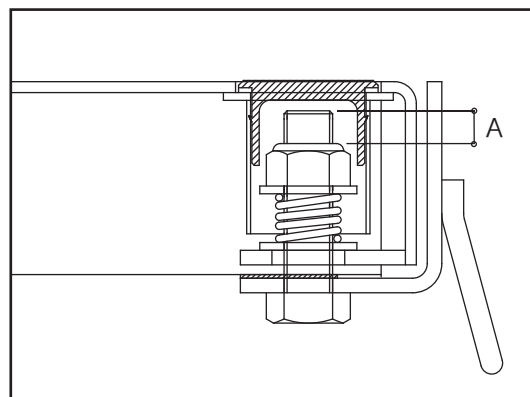


図2 ボルト・ナット取り付け部断面図

※14

MX77VTEF-U-M/MX77VTHF-U-Mはナットの締め込みが適正な位置で止まる構造です。

床部（屋外床）免震エキスパンションジョイント 施工手順④

7 Uタイプ Fタイプ	施工完了です。 ※ 1 5 仕上げ材充填タイプ M X 7 7 V T E F - U - M / M X 7 7 V T H F - U - M は本体パネルの充填部を仕上げて施工完了となります。 また、仕上げ材充填タイプの本体パネルは、受枠や受下地にセットせずに床仕上材を充填すると本体パネルが変形し、本体パネルのガタツキの原因になりますので、絶対に避けてください。
---	---